

出席の集計

個人の出席状況

個人ごとの出席回数を求めましょう。

- O1セルに「出席回数」と入力してください。

個人ごとの出席回数は、各回の「 」の数を数えればわかります。第6回で紹介した、COUNTIF関数を使ってみましょう。

COUNTIF (指定された範囲のセルのうち、検索条件に一致するセルの個数を返す)

- 書式 : COUNTIF(範囲, 検索条件)
- 引数 : 範囲 : 個数を求めるセルの範囲
- 引数 : 検索条件 : 個数を求めるセルの検索条件
- 例 : E1 ~ E10セルまでの内容が「 」のセルの個数を数える

```
=COUNT(E1:E10," ")
```

検索条件には、次のような**比較演算子**を使います。条件を満たす場合は「TRUE」（真）、満たさない場合は「FALSE」（偽）と判断します。

演算子	式	内容	例	結果
= (等号)	A=B	AとBが等しい	1=2	FALSE
<> (不等号)	A<>B	AとBが等しくない	3<>4	TRUE
> (～より大きい)	A>B	AがBより大きい	5>6	FALSE
< (～より小さい)	A<B	AがBより小さい	7<8	TRUE
>= (～以上)	A>=B	AがB以上である	9>=10	FALSE
<= (～以下)	A<=B	AがB以下である	11<=11	TRUE

実際に、COUNTIF関数での検索条件は、次のように指定します。文字列を条件にする場合は、「"」（ダブルクォーテーション）で囲みます。

COUNTIF(A1:A10," ")	A1 ~ A10セルで、値が「 」のセルの個数
COUNTIF(A1:A10,<>"")	A1 ~ A10セルで、値が空白（"）以外のセルの個数
COUNTIF(A1:A10,<=10)	A1 ~ A10セルで、値が「10以下」のセルの個数

したがって、「セルの値が であれば出席」の場合の検索条件は、「" "」となります。

では、次のようにして、関数を使って求めてみましょう。

1. O2セルをクリックしてアクティブにします。
2. 数式バーの「関数の挿入」ボタンをクリック
3. 利用する関数の選択
 - 「関数の分類」から「統計」を選択
 - 「関数名」から「COUNTIF」を選択
 - 「OK」ボタンをクリック

4. 引数の設定

- 「範囲」の入力欄をクリックし、C2～L2セルをドラッグして範囲指定
(自動的に「C2:L2」と入力される)
- 「検索条件」の入力欄に、「" "」と入力
(「 ' 」は「まる」で変換できる)
- 「OK」ボタンをクリック

計算できたら、O2セルの計算式をO3～O51セルまでコピーしてください。

N	O
	出席回数
89	7
41	7
95	9
88	10
83	9
87	0
81	
96	
95	

各回の出席状況

各回の出席状況として、出席者数と出席率を求めましょう。

- B38セルに「出席者数」、B39セルに「出席率」と入力してください。

出席者数の計算

C38セルに第1回の出席者数の計算を入力します。先ほどと同じように、COUNTIF関数を使って求めてください。範囲は、第1回の出席分（C2～C37セル）になります。求めることができたなら、C38セルの計算式をD38～L38セルにコピーしてください。

出席率の計算

次に、各回の出席率を計算します。出席率は次のような計算になります。

$$\text{出席率(パーセンテージ)} = \text{出席者数(人)} \div \text{受講者数(人)}$$

出席者数は計算済みなので、受講者数がわかれば、出席率が計算できます。今回は学生が36人いることがわかっていますが、受講者数がかっても計算できるように、[第6回で紹介](#)したCOUNTA関数を使って、名前のセルの数から、人数を求めます。

COUNTA（空白でないセルの個数を計算する）

- 書式：COUNTA(数値1, 数値2, ...)
- 引数：数値1, 数値2, ... : 個数を計算するセルの範囲
- 例：D1～D10セルまでの空白でない(値が入った)セルの個数を数える

```
=COUNTA(D1:D10)
```

ここでは、「関数の入力」ボタンを使わずに、直接関数を入力します。

1. C39セルをクリック
2. 「=C38/COUNTA(B2:B37)」と計算式を入力
3. Enterキーを押して、計算を実行
4. C39セルの表示形式をパーセンテージ(%)に設定

5. 小数点以下第1位まで表示するように設定

絶対参照

次に、入力した数式をD39～L39にコピーすることにします。

しかし、普通にコピーしてしまうと、正しい出席率を求めることができません。それは、コピーした先のセルでは、**受講者数を示すCOUNTA関数の引数(求める範囲)が狂ってしまう**からです。

そこで、[第6回](#)と[第7回](#)で紹介した、**絶対参照**を使いましょう。

参照のしかた	例
相対参照	A1
絶対参照(セルを固定)	\$A\$1
絶対参照(行を固定)	A\$1
絶対参照(列を固定)	\$A1

コピーしてもCOUNTA関数の引数が変わらないように、絶対参照の「\$」記号を2つ使って、**C39セルの計算式を変更してください**。入力できたら、C39セルをD39～L39にコピーしてください。

B	C	D	E	F
松永久秀	○	○	○	○
毛利元就	○	○	○	○
山県昌景	○	○	○	○
山中鹿介	○	○	○	○
出席者数	35	32	31	3
出席率	97.2%	88.9%	86.1%	

[次へ](#)進んでください。

}}